

# 自主防災だより

「自主防災の活動事例」 平成16年7月

発行：札幌市危機管理対策室 Tel.215-2090



さっぽろ市

自主防災組織の活動紹介と防災に関する情報をお知らせします。

02-P 02-04-341

16-2-75

## 予防推進会議の資料より～西区～

阪神・淡路大震災で救助された被災者のうち約95%の方は、自力または家族や隣人によって救助され、防災機関などに助けられたのは約1.7%に止まりました。(社団法人日本火災学会の調査結果)

自衛隊が救出した生存者・・・・・・・・・・165人

消防が救出した生存者・・・・・・・・・・733人

消防団が救出した生存者・・・・・・・・・・819人

そして、約25,000人は住民自らの手によって救出されました。



自主防災こそが、地域の危機管理組織であり、防災力を高めます。



(八軒琴東町内会訓練風景)

### 阪神大震災の体験記1 一人では何もできなかった。

かろうじて家から這い出した私たちが見聞きしたのは、猛火、うめき声、そして絶叫だった。火が迫ってきた。力の限り柱を持ち上げたが、奇跡は起こらなかった。何もできなかった私たちにどうか恨まないで下さい。

<『阪神大震災 瓦礫の中の群像』栗野仁雄著／東京経済>

### 阪神大震災の体験記2 足を切ってくれ！

中島さんが言った。「足を切ってくれ！」高下さんがかえす。そんなことでけへん。きっと助けたる！」しかし、足元からも火が噴き出した。土砂に埋まった木材が燃えているため、消火できない。

住民は避難を始めた。「はよ逃げんと、あんたも危ない」の声が耳に届いた。

「へビの生殺しみみたいなことできるか！おっちゃん、ぴんぴんしてるやないか」と叫び返した。避難しかけた住民が戻った。今度は柱の間に鉄の棒を差し込み、ロープをくくりつけて10人で引いた。動かない。次は20人がロープを握った。掛け声もろとも力を込めた瞬間、中島さんの足がすぽっと抜けた。地震発生から3時間が過ぎていた。周囲で歓声が上がった。

<『大震災 その時、わが街は』神戸新聞社編／神戸新聞総合出版センター>

**地域の皆さんの助け合いによる初期活動が防災の「かなめ」です。**

## 厳冬期の災害に備えて～冬季防災訓練

### ひまわり連合自治会防災会

ひまわり連合自治会防災会（廣田文雄会長（現 佐々木光男会長））は拓北地区の6町内会から構成され、平成9年の発足以来、自主的かつ積極的に防火・防災活動を推進しています。

このひまわり連合自治会防災会では、去る2月15日（日）に厳冬期に大規模災害が発生したとの想定で、冬季防災訓練を実施しました。

冬季防災訓練の特徴は、日中の煙道通過訓練や親子・高齢者のための防災教室、普通救命講習もさることながら、午後7時から暖房・電気・水道等のライフラインが停止した過酷な状況下で、避難所での宿泊体験を行うというものでした。

避難誘導班は、電気がない暗闇の中、懐中電灯を頼りに参加者を誘導し、給食給水班は、ろうそくの灯りをたよりに、非常食を準備し参加者に配布しました。また、暖房の停止した会場は、時間の経過とともにどんどん気温が下がり、参加者は自宅から持ち込んだ衣類を重ね着したり、毛布と寝袋にくるまりながら不安な一夜を過ごしました。

今回で5回目となったこの冬季防災訓練は、厳冬期にライフラインが停止するという最悪の状況を想定しており、参加者は日頃の備えがなにより大切なのだと、気持ちを引き締めていました。



## 地域の防災活動の活性化に役立つ図上訓練

### 新川連合町内会

去る3月7日（日）、新川連合町内会（城木浩一会長）の14単位町内会が集まり、図上訓練を実施しました。この訓練は14の単位町内会を4つのグループにわけ、「札幌市中心部を震源とするM7.5の直下型地震が発生した」との想定で行われました。

災害現場の映像や音響が流れ、臨場感があふれる中、参加者はまず、それぞれの地域の大きな地図に避難場所までの避難経路を書き込みます。同時に、地域で発生した災害の情報がカードで伝えられます。情報収集班は収集した災害の情報をホワイトボードにまとめ、消火班や救出班は、自主防災組織による消火活動や救急・救出活動を図上で行います。この時に、地域にある災害時に活用できるものをなんでも自由に地図上に記載します。

最後に、成果発表として各単位町内会ごとに、良かった点・今後検討を要する点などを発表します。

図上訓練の成果としては「具体的にどこが避難場所であるかがよくわかった」、「もう一度、自主防災組織の編成を見直す必要がある」という声が上がりました。

また、防火水槽・消火栓や建設会社の重機等の地域にある災害時に使えるものの発見や、反対に危険箇所の発見等をあげた町内会もありました。

このような成果のみならず、この訓練を通じ参加者の意思疎通がはかれたこと、また、自分たちのまちを改めて見直すことで、地域の防災活動を活性化させる大きなきっかけとなったことにも意義のある試みでありました。

